核データニュース, No.40 (1991)

パ リ 便 り

（ＮＥＡ／データバンク）柴田　恵一

はじめに

パリへ来て早いもので１年数ケ月が過ぎました。こちらでの生活にもどうにか慣れた今日この頃です。任期は３年ですので、まだしばらくは頑張らなくてはなりません。時々、日本の生活が懐かしくなることもありますが（特に食べ物）、どこでも住めば都と云った感じです。以下にこちらでの仕事や生活について若干紹介しようと思います。

NEA Data Bank

私が勤務しているのはＯＥＣＤ／ＮＥＡの１つのセクションData Bank（以後ＤＢと略す）で、職場はパリの南西に車で40～50分行ったサックレー原子力研究所の中にあります。周囲は畑で木々にかこまれ、パリ市内と違って仕事をするには良い環境でしょう。私の部屋の窓からは時折、野うさぎが芝生の上で遊んでいる光景が見えます。最近、ＤＢのパリ市内への移転の話がもち上がりました。現在ＮＥＡはパリ16区内の２ケ所とサックレーの計３ケ所に分れていますが、ＮＥＡ内部のcommunication を良くするのと機構の簡素化を計るためにパリ市内の１つの建屋に移転しようと云うものでした。ＤＢの職員の多数はサックレーの近辺に住んでいるため、通勤に時間がかかる（朝晩のラッシュ時には車で２時間かかるとの事）との理由で移転反対運動が起きました。結局、費用がかかり過ぎるとの事で、年内の移転は見送られました。来年以降どういう展開があるか分りませんが、しばらくはこのままでしょう。

さて、ＤＢでの仕事ですが、主なものは核データに関する業務、プログラム・サービス、それとＴＤＢの整備ということになります。シグマ委の方々にはＴＤＢは聞き慣れないかもしれませんが、Thermochemical Data Base の略で廃棄物の地層処分に必要な５元素の熱力学データの収集、編集を行っています。核データに関しては、ＣＩＮＤＡ、ＥＸＦＯＲ、ＪＥＦ－２の編集等を行っています。プログラム・サービスは各研究機関から送られて来た原子力計算コードをテストしてマスター・ファイル化するとともに、リクエストによりそれ等をユーザーに提供します。

私自身はプログラム・サービス部門でプログラム・テストを担当しており、計算機としてはin－house のＶＡＸ、ＰＣそれと隣のオルセーの大学にあるＩＢＭ－３０９０を使っています。最近はＰＣ用のプログラムがかなりありますが、使うＦＯＲＴＲＡＮ compiler により結果が異なるケースがしばしばあるという事が分りました。まだ、ＰＣ用ＦＯＲＴＲＡＮ compilerはState－of－art なのかもしれません。最近テストしたプログラムで一番てこずったのが、

ＥＮＳＤＦのユーティリティー・コードです。ＶＡＸでは何ら問題がありませんでしたが、ＩＢＭで走らせてみたら結果がサンプルと異なるケースがでてきました。一応これ等のコードはすべての計算機で使えることになっているのですが、作成したＢＮＬでは経費削減のためＶＡＸでのチェックしか行わなかったものと思われます。コードはすべてＩＢＭで通るように修正されて現在ＤＢのマスター・ファイルに登録されています。このようにＤＢのマスター・ファイルに登録されているプログラムはすべて独自にテストを行い必要な修正を施していますので、オリジナルよりも信頼性が高くなっています。

ＤＢのon－line serviceについて解れておきましょう。利用出来るserviceはComputer Program Service、Nuclear Data Service、ＴＤＢです。Program Serviceはそれぞれのコードの特徴が参照出来るようになっており、自分が使いたいプログラムをkeywordを使って捜し出せるようになっています。そして、program requestを出すことにより、プログラム・パッケージを好みの型式（磁気テープ、フロッピー、電子メール）で得ることが出来ます。Nucleur Data ServiceはＥＸＦＯＲ、ＣＩＮＤＡ、評価データ、ＥＮＳＤＦ等のretrieveを行うことが出来ます。又、理論計算に必要なスピン・パリティー等離散準位の情報をNuclear Data Sheetsを見ないで得ることが出来ます。同様なon－line serviceはＮＮＤＣ（ＢＮＬ）でも行われており、近々ＮＤＳ（ＩＡＥＡ）もＶＡＸを購入する予定ですのでそうなればＩＡＥＡを通しても行われることになります。経費削減のため今後on－line serviceはその比重を増して行くものと思われます。ＣＩＮＤＡの無料配布が難しくなっていることでもあり、日本でも何らかのon－line data serviceを考える必要があるでしょう。

ＤＢには20数名の職員がいますが、その内何人かを紹介しましょう。ＮＥＡのDeputy DirectorでＤＢの大ボスがJ. Rosén氏。オフィスがパリとサックレーの２ケ所にあり、従って週の半分しかＤＢにいない。次に、ＤＢのHead(小ボス）がオックスホード出身のN. Tubbs氏。彼の云っている事が全く分らない事が度々あります。核データを担当しているスウェーデン人のC. Nordborg氏、ＮＥＡＮＤＣのsecretariatも務めている。プログラムサービスのチーフ格がイタリア人E. Sartori氏。ＮＥＡＣＲＰのsecretariatも務めており、電話がひっきりなしに掛かってくる。彼が本当に自分の仕事が出来るのは多分夕方５時以降でしょう。実際、夜９時位までオフィスにいるらしい。私とともにプログラム・テストを担当しているR. DiCola氏、V. Tonelli氏（彼はＩＡＥＡから派遣されておりシシリー島出身。マフィアの親戚がいるかも？）それに動燃敦賀からはるばる来た渋谷氏。ＴＤＢ担当がH. Wanner氏、I. Forest嬢と動燃東海からコンサルタントとして来ている宮原氏。残念ながらForest嬢は９月末でＤＢを去ります。それから、私の隣の部屋のP. Nagel氏。ＤＢ移転の話が出た時反対運動の先頭に立ってかなりexciteしていた。自宅に自らの手でプールを作ったとの事です。

パリでの生活

前号の核データニュースでＳＣ氏に「優雅にパリ生活を満喫しているＫＳ氏」と書かれましたが、“優雅に”は当ってませんがそれなりに生活をenjoy しているのは事実です。ただ、物価は高く日本にいた時に比べ２～３倍の生活費が必要です。金と時間があったら、パリほどすばらしい所はないでしょう。治安はニューヨークなんかに比べかなり良いと思いますが、日本人は金持ちだと思われているせいか観光客がひったくり等に合うケースがあるようです。

この原稿を書いているのは８月末ですが、まだバカンスから戻っていない人が多いのかパリの街の中はどこにでも駐車が出来るのでたいへん楽です。交通渋滞もなく７、８月のパリは快適です。御存知かもしれませんが、フランス人は車に乗ると人格が変わる様でともかくスピードをだします。そして、他の車より少しでも先に行こうと、どんどん前に割り込んで来ます。そういう場合、私は税金を払っていない身ですので（ＯＥＣＤの職員はフランス政府とのとり決めにより所得税が免除されている。いいでしょう！）、納税者のために道をあけるつもりであまりカッカしない事にしています。

写真１　パリ・シャンゼリゼ通り

夏のバカスンは大抵１ケ月位となります。ＯＥＣＤは年休が30日ありますので、土日を入れて６週間休める勘定になります。フランス人は夏の間南に民族大移動します。日本人の感覚から云うと夏に暑い所へ行く者の気が知れませんが、ヨーロッパの暗くゆううつな冬を経験するとその気持ちが理解できます。夏の間に思う存分、日の光を浴びておきたいのです。私は今年の夏のバカンスを８月と９月の２回に分けて、それぞれ２週間程とることにしました。８月にはノルウェーに行きました。

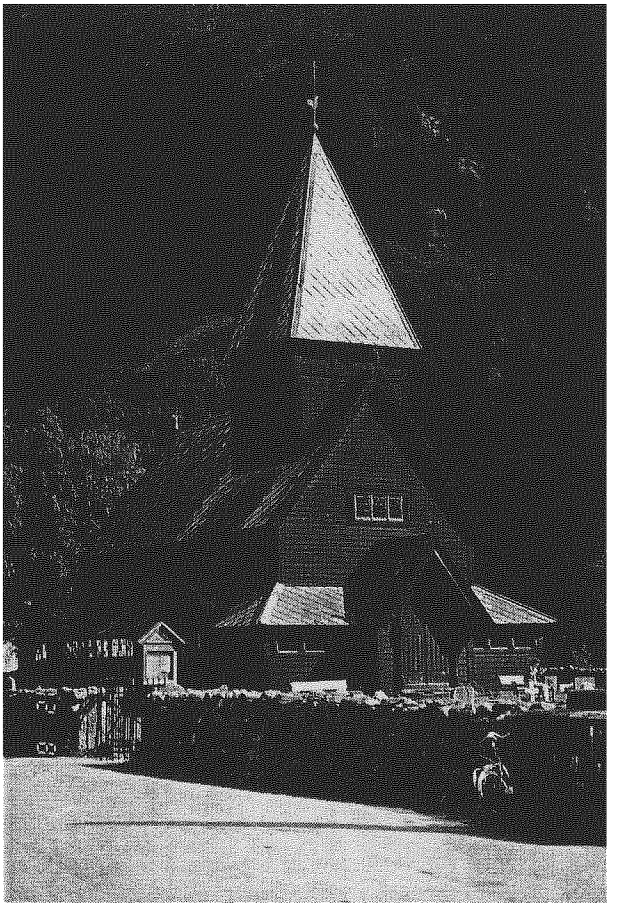
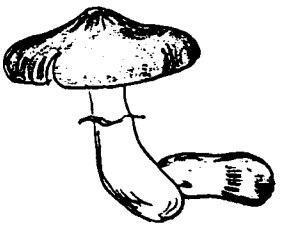


写真２　ノルウェーの14世紀に建てられた木造の教会

オスロからベンゲン迄車で旅行しましたが、フィヨルドの景色はやはり壮感でした。９月にはドイツ、オーストリア、スイスと回る予定にしています。

パリで生活していて今迄で最大の事件は湾岸戦争の勃発でしょう。フランスはイラクに派兵

した当事国の１つとして、戦争中は一種の緊張状態にありました。イラクのスカッド・ミサイルがパリに飛んで来るとは思いませんでしたが（それを真剣に心配した人もいました）、テロに対する警戒は厳重なものでした。街のいたる所に警官が立ち、美術館に入るのにも所持品検査をされる状況でした。普段はフリーパスで入れるＤＢも、戦争中はガードマンが立ち、ＩＤカードの提出を求められたりしました。フランス人は誰もが４年前に起きた一連の爆弾事件の恐怖を思い起こしました。ＯＥＣＤ職員にも極力車での外出を避けるようにとの通達がでた程です。これは我々の車には外交官ナンバーが付いているため、テロのターゲットになり易いということからでたものです。パリでは左翼系の新聞社に爆弾がしかけられたりしましたが、それ程大きな事件もなく戦争も早く終わったのでほっとしています。あれ程、戦争を身近に感じた事は今だかつてありませんでした。平和な日本がうらやましい限りです。

おわりに

季節は夏から秋・冬に向っています。ヨーロッパで迎える２回目の暗い冬です。人が恋しくなる時期でもあり、出張等で近くにお寄りの際は是非声をかけて下さい。